

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105008
法人名	医療法人 博悠会
事業所名	グループホーム エデンの丘
所在地	鹿児島市坂元町161-4 (電話) 099-247-5055
自己評価作成日	令和4年1月5日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・季節の行事(お花見・お食事会・合同夏祭り・敬老会・コスモス見学・クリスマス会等)や、誕生会(2ヶ月に1回)、家族会(食事会)などに家族の方にも参加の呼びかけを行い、入居者、職員、ご家族が一体となって楽しく過ごせるように取り組んでいる。(コロナ感染症対策のため、一部、自粛中である。)</p>
<p>・朝・夕の体操を毎日実施すると共に、個人の体力に応じてストレッチなど取り入れ、残存機能の維持に努めている。又、少なくとも1週間に1回は全員が散歩等の外気浴を実施し、気分転換が図れるようにしている。</p>
<p>・地域の町内会に加入すると共に、職員が消防分団に在籍。町内の行事(町内会の夏まつりや敬老会、校区生涯学習発表会等)には入居者や職員が参加させて頂いている。又、月1回の清掃作業では近くの公園や町内会のごみ拾い等を行い、地域の一員としての役割を果たすように努めている。(コロナ感染症対策のため、一部、自粛中である。)</p>
<p>・運営推進会議、家族会など定期的を実施し、ご家族始め地域の方や長寿安心相談センター職員、関係者の方々にホームの現況報告を行い、頂いたご意見・ご助言などを下に日々の運営に活かせるように努めている。(コロナ感染症対策のため、自粛中である。)</p>
<p>・有事の際の防災対策として町内会との防災組織を立ち上げ、それと連動した地域の近隣の福祉施設や事業所との連携を構築。協力施設間同士の地域防災連携会議の開催を定期的に行って、防災活動に努めている。(令和3年7月現在、コロナ感染症対策のため、自粛中である。)</p>

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成4年1月18日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、鹿児島市坂元地区の中心地に、平成18年に同法人の有料老人ホームやデイサービス事業所、小規模多機能ホームに隣接して開設されており、これらの事業所とは、災害時の協力や合同研修の実施など、密に協力体制を構築している。周辺には郵便局や小学校、コンビニ、レストラン、民間企業、個人住宅等が立ち並んで利便性は十分である。地域密着型事業所として開設以来、地域との交流を大切に取り組んできており、自治会に加入して防災活動や運動会、敬老会等の地域行事や奉仕作業に参加し、散歩時の挨拶や施設見学、ボランティア、友人知人の面会、隣接事業所の利用者との交流を積極的に受け入れる等、良好な関係を構築しているが、コロナ禍に配慮して、現在は自粛している。</p> <p>管理者及び職員は、ホームの理念及びケアの姿勢「日常の5心」を玄関やリビング等に掲示して周知を図り、利用者に寄り添い、思いの汲み取りに心がけ、尊厳や人格を大切にケアに努めている。利用者及び家族からの意向や要望にも、職員会議等で協議して改善を図っており、信頼関係が築かれている。利用者の心身の状態や生活習慣、ペースに配慮し、意向に沿って趣味(ぬり絵、昔の音楽やビデオ視聴他)など個別の支援にも努めて、安全で生きがいのある暮らしとなるよう取り組んでいる。</p> <p>管理者及び職員は、日頃から気軽に意見を言い合える信頼関係を構築しており、日頃の業務の中や職員会議等で意見を出し合い、個人的な事情や有給休暇の取得促進などにも配慮しながら、サービスの向上や働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。利用者の介護度が進行して支援の負担が増大している現状であるが、協力や工夫を行って利用者主体のケアに取り組んでいる。法人全体の研修「キャリアアップ」では、受講後にレポートの提出やテストを実施し修得の熟成を図っている。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「地域に信頼され人々との交流が自由に出来るように配慮します…」という理念をリビングに掲げ、毎日朝礼時に唱和し実践につなげている。	開設時に掲げた理念は、ケアの目標、「日常の5心（素直、反省、奉仕、謙虚、感謝の心）」と共に目につきやすいリビングや事務室等に掲示し、また、朝礼時に唱和も行って周知を図っている。日頃のケアの中や職員会議等で振り返りや意見交換を行って意義を共有し、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入すると共に職員が地域の消防分団に在籍している。又、事業所、町内会双方の行事等にお互いが積極的に参加する事で、日常的な交流が図れるようにしている。（コロナ感染症対策のため、自粛中。）		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	事業所間の合同による認知症に関する研修会や月1回、地域の方々との交流を図る為、いきいき交流会を開き、職員も一緒に参加させて頂いている。（コロナ感染症対策のため、自粛中。）		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、ホームの現況、評価への取り組みなどを報告すると共に、地域や家族から情報や助言を頂き、業務の改善に取り組んでいる。（コロナ感染症対策のため資料の配布をもって、開催としている。）	従来、会議は、家族や民生委員、消防分団、地域住民、市職員等が参加して定期的に開催してきているが、現在はコロナ禍に配慮して、一堂に会する会議の開催は中止し、ホームの運営や行事、利用者の状況等の資料を委員に配布して意見をもらい、職員会議等で検討してサービスの改善に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が実施する説明会や研修等に参加するようにしているが、必要に応じてコロナ感染症対策を行った上で市役所、長寿安心相談センターに電話以外にも直接出向いて、助言や指導を頂いている。	市の担当者には窓口に出向いたり電話で、介護保険の更新や各種制度に関する報告や協議、感染症予防に関する申請、生活保護受給中の利用者に関する業務等を行い、助言、指導、提案を貰うなど、日頃から協力関係を築いている。市主催のリモートによる研修や会議にも参加して、運営やサービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け規定に基づき勉強会（資料の回覧をもって）を行うとともに、グループホーム内での定例の会議を3ヶ月に1回、行っている。又、メディアの報道等を受け朝礼・終礼時等において職員に周知を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を毎月開催して、事例研修や人感センサーの設置や除去等をテーマに話し合い、「身体拘束3原則」も唱和しており、身体拘束や高齢者虐待に関する勉強会も計画的に実施して認識を共有している。法人全体でのキャリアアップ研修後はレポート提出やテストを行っている。スピーチロックなど不適切な言葉遣いには、その都度注意し合って拘束の無いケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場合同勉強会の年間スケジュールに「高齢者虐待及び、身体拘束等の排除に関する研修」の項目を設け、全職員への周知を図るとともに、虐待防止に関する理解と実践に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連する研修会があれば積極的に参加するようにしているが、コロナ感染症対策のため、自粛中。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項説明書及び、看取りに関する指針に基づき丁寧に説明し、特に医療行為が必要になった場合の対応、退去を含めた事業所の方針等について理解・同意を頂いてから契約を行うようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と信頼関係を築く事を念頭に、不満などをなるべく事前に察知し、何時でも自分の気持ちが出せるように支援する。又、意見箱の設置や家族会以外にも話し合いを行い、意見や苦情などを聞く機会を設け、運営に反映している。(コロナ感染症対策のため、自粛中。)	日頃から、利用者や家族との信頼関係を大切に、気軽に意見を言って貰えるように配慮している。利用者の思いは日常の会話や仕草等で汲み取り、家族からは面会(コロナ禍に配慮して窓越しで実施)や電話、メール等で、また、毎月発行の「ご家族様連絡表」で利用者の写真やコメントで実態を伝え、意見や要望を貰うように努めている。職員は出された意見を共有し、職員会議等で協議して改善に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、終礼や月例職員会議の時、又、委員会活動(おごじょプロジェクト)の一環として、職員は気づいた事を記載し、管理者に提出する事で意見や提案を聞く機会を設けている。	管理者及び職員は気軽に意見を言い合える信頼関係を構築している。日頃の業務の中や朝礼、終礼、職員会議時に意見や要望を出し合い、必要に応じて個人面談も行って業務やサービスの改善に取り組んでいる。ケアに関する助言やスキルアップを図る研修を実施し、利用者の重度化に伴い業務の負担が増大している現状の中でも勤務シフトには有給休暇の取得や個人的事情にも配慮する等、働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者である理事長は管理者と常に連携を取り、職員の勤務状況の把握や給与・休日面でも考慮し、働きやすい環境作りに心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修開催の案内を連絡簿に綴る事で、職員の参加を促している。又、その研修内容を職員会議の時報告し、職員全員で勉強する機会を設けている。（参加についてはコロナ感染症対策のため、リモート研修などで対応している。）</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>鹿児島グループホーム協議会、介護支援専門員協議会等に入会し、積極的に研修に参加している。又、地域連携防災会議を通して、防災以外でも他施設との交流の場を設けている。（コロナ感染症対策のため、自粛中。）</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で本人の生活歴や現在の生活状況などの把握を行い、本人や、家族などから話を聞いた上で、不安や問題点について理解し、信頼関係が築かれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの本人の生活歴、家族関係を把握した上で、家族が困っている事や要望等に耳を傾けるなど、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、本人や家族にとって一番に必要な支援は何かを見極め、現況の改善に向けた提案等をしている。必要や希望があれば、他のサービスも提案するように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の日々の言動に常に関心を持ち、言葉の裏側にある思いをくみ取り、ともに暮らしの中で共感し支えあえるような関係作りに努めている。逆に入居者に教えられることも多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「ご家族連絡表」を送付する事で、日々の暮らしや生活の中での出来事や気づきを家族と共有するように努め、家族も行事などへ参加して頂き、共に本人を支えていく関係を築くことに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の支援を得て、お墓参りや外出等へ出かけている。又何時でも知り合いの方々の面会が気兼ねなく出来るような雰囲気作りを心がけている。（コロナ感染症対策のため、自粛中。）	感染予防対策を徹底したうえで園庭での外気浴や家族との窓越しの面会、通院等に取り組んでいるが、コロナ禍により制限も多く、ドライブや一時帰宅、会食、外出、墓参、ボランティアの受け入れ等は控えている。家族との電話やメール、手紙、プレゼント等を取り次ぎ、また、毎月「ご家族様連絡表」も送付して利用者の状況を伝える等、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で過ごす時間を大事にし、一人一人が孤立しないように、毎日のお茶の時間には職員も中に入り、利用者同士のコミュニケーションを図れるように支援している。（コロナ感染症対策のため、自粛中。）		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後なども、必要とされる利用者や家族に対しては、相談などに応じ継続的なかわりを持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で、言葉や表情から隠れた思いを推し測り、本人や家族の意向と異なる場合は、接点が図れる様に努めている。又、困難な場合はカンファレンスを行うようにしている。	日々の会話や表情、仕草等から利用者の思いを汲み取り、家族の意向も伺いながら利用者主体のケアに努めている。認知症を患っても、その人らしい生きがいのある暮らしとなるように、趣味（ぬり絵、音楽やテレビ視聴他）や食事のテーブルやお盆拭きなどの家事の取り組みも、利用者の意向や残存能力等に配慮して個別に支援し、取り組み後には評価や感謝の言葉を添えて自己肯定感の修得を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の中で本人やご家族の生活歴などの聞き取りを行うと共に、以前利用されていた事業所の職員からも情報を得る様に心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック表、経過記録等を通して利用者の生活リズム（食事、排泄、生活習慣等）を把握し、本人の出来る事に注目し、全体像をつかむようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿って三ヶ月に1回は評価を行い、最低でも六ヶ月に1回はコロナ感染症対策を十分行った上で、家族も含めカンファレンスを行っている。又、朝夕礼での申し送りをしっかり行う事で、情報や意見等を介護計画に生かしている。	利用者や家族の思いや意向を汲み取り、主治医の指示やカンファレンス、モニタリング時の職員の意見を基に、残存機能や習慣、趣味等にも配慮した介護計画を作成している。利用者の状況変化時には実態に沿って計画を変更し、利用者や家族の同意を得てケアに取り組んでいる。実施状況は申し送りやバイタルチェック表、施設介護支援経過等に詳細に記録して共有している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子や実施したケアは経過記録に記し職員間で情報を共有しながら、重要なことはカンファレンスを行い、日々のケアや介護計画の見直しに活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員もその時々変わるニーズに応えられる様に、リモート研修会や勉強会（資料回覧）などへの参加を行い、スキルアップを図るようにしている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	有事の際の地域の方や、隣接する福祉施設や金融機関等との協力支援体制を構築している。又、地域のボランティアの方も積極的に受け入れている。（コロナ感染症対策のため、自粛中。）		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人・家族の意向を第一とし、協力機関の病院や他病院への受診をコロナ感染症対策を十分行った上で、家族の支援を頂くと共に家族の希望があれば訪問診療を受け入れている。	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、現在は数か所の医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療が実施され、他科受診は家族が主体的に同行している。協力医療機関との医療連携の体制が構築され、日頃から衛生や健康管理を徹底しており、健康状態は家族にも密に報告することで利用者及び家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は日々の利用者の様子を把握すると共に、介護職員との情報交換を密に行い、個々の利用者が適切な受診や治療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づく	入院時にはホームでの本人の身体状況・レベル・生活上でのこだわりなどを情報提供し、入院中の生活が円滑に行くように支援している。又、家族や医療関係者との連携を図り、退院時にはサマリーなどを頂き、ホームの生活に早く戻れるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に対する指針について契約時に説明している。その上で事業所で出来ることを説明し、家族と方針を共有するようにしている。	看取り対応の理念や指針を整備しており、利用開始時に本人や家族に説明して理解を得ている。入所後も利用者の状態変化に応じて意向を確認している。重度化した時点で主治医より病状が伝えられ、主治医や看護師と連携して可能な限り希望に沿った支援に取り組んでおり、チェックシートも活用して看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について個別にマニュアル化している。又年間行事計画の中で定期的に基礎救急救命講習会を開催して、心肺蘇生法、AEDの使い方など職員が習得している。（講習会については、コロナ感染症対策のため、自粛中。）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練は年2回実施し、夜間を想定した避難訓練も実施している。万一、火災・災害発生時は、近隣の住民や協力施設の方からの応援体制を取っている。又、職員が地域の消防分団に入団している。(コロナ感染症対策のため、自主訓練とする。)</p>	<p>夜間想定を含む災害訓練を隣接の小規模多機能ホーム(同法人)と合同で実施し、自主訓練の結果も書面で消防署に報告している。昨年からの住民の訓練への参加はコロナ禍に配慮して要請せず、利用者と職員で実施しているが、緊急時には住民や隣接の事業所の協力体制が構築されている。日頃から通報や避難経路、消火設備等を確認するなど防災への認識の共有に努めている。自動通報装置やスプリンクラーが設置され、ラジオ、懐中電灯、卓上コンロ等を備え、2023年5月までの食糧品、飲料水、介護用品等も備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの接し方において言葉遣いに気をつけ、人格を損ねないような対応を心がけている。又、排泄や入浴時等のプライバシーにも配慮するようにしている。	利用者の人格の尊重やプライバシーの保護については重要事項や運営規定等に明記され、計画的な研修の実施やケアの振り返り、意見交換等で認識を共有している。利用者の個性、習慣等にも配慮しながら自己決定を尊重した支援に努めており、居室やトイレ、浴室等はプライバシーを考慮した構造になっている。衣服の着脱や排泄、入浴時の声掛け等は羞恥心にも配慮して適切な声のトーンや言葉遣いに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を言動だけに限らず、動きや目の表情などで読み取り、その方の能力に合わせた話しかけを行い、本人の自己決定を引き出すような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に応じて支援している	入浴や訪問理美容（散髪）の拒否のある入居者は次回にするなど、個人の意向に沿えるようにしている。又生活リズムやペースを尊重しつつ、周りとの協調性も図れるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	個人の選択を尊重しつつ、さりげなく助言し、出来るところはしていただき、出来ないところを支えるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲を五感に訴え、食事が楽しみとなるように心がけている。嫌いな物は出来る範囲で代替品を又、嚥下の悪い方にはお粥を提供している。台拭きや下膳後のお盆拭き、ホワイトボードへの献立の記入など個人の能力に応じてしていただいている。	食事は利用者の楽しみで、関心も高いことに配慮して、栄養バランスや形態、季節感等に配慮したメニューになっており、昼及び夕食は、業者に委託している。節句やクリスマス、敬老会等の行事食や誕生日のケーキ、手作りのゼリーのおやつ等工夫し、利用者もお盆拭き等を楽しみながら取り組んでいる。コロナ禍に配慮して外食や家族との会食等は自粛中で、口腔ケアもプランに沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を把握し、一人ひとりの嚥下状態に合った摂取が出来るように支援している。夏場は特に水分補給に注意し、ポカリなどで補水してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず、口腔ケアの声掛けを行い、必要に応じて介助をしている。義歯については定期的に洗浄剤での除菌を図っている。又、必要に応じて歯科の往診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導を行い、トイレで気持ちよく排泄が出来るように支援している。	各利用者の排泄パターンを把握し、身体の状態や習慣にも配慮した声掛け等で、可能な限りトイレでの排泄を支援しているが、4人の利用者が夜間のみポータブルトイレを使用している。利用者の状態に応じた介護用品や方法を介護計画に反映させて改善に努めている。便秘の予防に繊維の多い食材や乳製品、水分の摂取、運動量等に配慮し、主治医にも相談しながら座薬や緩下剤を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、食事の工夫や適度な散歩等の運動を実施している。特に便秘がひどい場合は、主治医と相談し、緩下剤で調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一応、入浴の曜日や時間帯は決めているが、強い入浴拒否のある入居者に対しては翌日に入浴していただく等、柔軟な対応を心掛けている。	週2回の入浴を基本として支援しているが、必要時には、その都度、シャワー浴等で清潔を保っている。入浴の順番や温度、時間、習慣、同性介助、好みのシャンプー等は利用者の意向に沿って柔軟に対応し、個浴でゆっくり楽しんでもらい、また、入浴後は水分補給や皮膚疾患の手当を支援している。入浴をためらう利用者には、声かけや日時の変更等を工夫して意欲が起ころのを待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のニーズ、状況に応じて休息を支援している一方、レクや体操など日中の活動を活発にすることで、昼夜逆転を防止している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに病歴や内服薬の状況を綴じ、何時でも見られるようにしている。症状の変化があれば、上司・看護師に連絡し主治医の判断を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや洗濯物たたみ、お盆拭きや下膳などの手伝いを行う中で、一人ひとりの力を活かせるようにしている。又、「戴きます。」等の音頭とりをして頂く事で、役割感を持つようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はホームの庭を全員が順番で外気浴をしたり、定期的にご家族と外食や散歩をされるなどして気分転換を図っている。又、隣接するデイサービスでの慰問者による踊りなどの行事に参加している。(外気浴以外は、コロナ感染症対策のため、自粛中。) 14	天候や健康状態に配慮しながら日常的に園庭での外気浴や散歩、プランターの水やり、家族との病院受診、委託業者の厨房への食缶受け取り時の車への同乗等を継続しているが、コロナ禍に配慮して公園へのドライブや買い物、一時帰宅、墓参等の外出は控えている。また地域のイベントの殆どが中止され、ホームの行事も十分には実施できない状況であるが、室内でのゲームや手工芸、懐メロ、ビデオ鑑賞、職員による踊り等、工夫してリフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の把握の下、本人で少額のお金を所持している。その他必要に応じて預かり金から出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の取次ぎを支援し、又必要があれば電話をかけられるよう仲介している。手紙が来たら本人とともに感情を分かち合うようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンや照明で光の調節を行い、また不用意に大きな音を出さないように配慮している。リビングには皆さんで作成した壁画など季節感のあるものを掲げている。対面式のキッチンで調理の状況が見え、食欲をそそる音や匂いが漂い生活感を大事にしている。	利用者が昼間の殆どを過ごすリビングは余裕あるスペースが確保されて明るく、動線や利便性に配慮してテーブルやソファ、テレビ等が設置されている。随所に利用者の作品、季節感のある壁画等が飾られ、対面式の台所からは配膳の状況や臭いが伝わるなど家庭的で和やかな雰囲気となっている。清掃や整理整頓、空調、手指消毒剤やパーテーションの設置など感染症予防対策が徹底され、不快に感じる音や臭いもなく、利用者は四季を感じながら平穩に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一角にはソファが置いてあり、入居者やご家族がくつろげるスペース作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ソファやテーブル、パイプハンガーなど持ちこまれ、使い勝手を良くする等、居心地良い空間作りをしている。又家族の写真を飾られている方もある。</p>	<p>各居室の入り口には、写真や名前の表示のほか、自室を迷うことの無いように目印の花の絵の飾り物を付けている。居室はフローリングに腰高又は掃出し窓で明るく、余裕ある広さが確保されており、利用者は在宅時に愛用していたテレビやソファ、寝具、家族写真、仏壇、小物等を持ち込み、自身の作品も飾るなど、その人らしい寛げる居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室の入り口にはご本人の写真と名前、花の絵を掲げ、又、目印になるような物を付けて気づきやすいようにしている。トイレは分かりやすいように絵文字で表示。ホールやトイレ、浴室には手摺を設けて安全面で考慮している。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない